

モオリアツクのこと

堀辰雄

青空文庫

現代作家の中で誰が一番好きかと問はれたら、僕は躊躇せずモオリアツクの名を擧げるだらう。去年の夏は病氣で仕事が出来なかつたので、毎日のやうにサナトリウムの裏山へ行つては木蔭に寝ころんで、東京から取り寄せたフランスの新刊小説に読み耽つたものだつたが、みんなそれぞれ面白いとは思つたものの、やはりモオリアツクのものがどうも一番好きだつた。自分が痛切に求めつつあるものが、其の中にあつたからかも知れない。——と言つても、僕はまだ十いくつかあるモオリアツクの作品を二つ三つしか讀んではゐないのだ。が、讀んだものは少くとも二遍は讀み返してゐる。「テレエズ・デケイルウ」なんかは、夏から秋に

かけて、三遍ゆつくり読み返した位だ。機會があつたら、もつともつと読み返したいと思つてゐる。近頃、これほどの情熱を僕に吹きこましてくれた作家はモオリアックを措いては他にはないのである。

辻野久憲君の譯された「癩者への接吻」も「母」も、この夏讀んで大いに感動したものだ。今度も辻野君の譯で「母」の方だけ讀み返したけれど、矢張りどうも好い立派なものである。この二篇といひ、「テレエズ・デケイルウ」といひ、いづれもモオリアックのものとしては比較的初期に屬するが、かへつてこの時分の作品の方が僕等——ことに僕なんかにはびつたりと來るのではないかと思ふ。三篇ともモオリアック獨特の様式で書かれた中篇小

説（？）で、丁度五號ぐらゐの大きさの活字で、二百頁前後、僕等流の數へ方にしてぎつと二百枚見當のものと思ふが、この程度の長さのものなら、非力な僕などにも努力次第でどうにか書けさうな氣がするし、現に大いに書きたいとも思つてゐるから、さういふ氣持からも、お手本になりさうなこの種の中篇小説（但しモオリアツクはそれ等にも單に“roman”といふ名稱を與へてゐる、まあそんな事はどうでもいい、）が自分には一層親愛な氣がしてゐるのかも知れない。辻野君がモオリアツクを紹介するにあたり、先づ示すにこれ等二篇を以つてしたことは大いにわが意を得たものである。

モオリアツクのものを作品社で出すについては僕なんか大い

に煽動した方だから、何か實の入つたことを書かなければならぬやうな氣がしてゐるが、いま僕は他のことでちよつとのつびきならぬ氣特になつてゐるので、そのうち機會を得て書きたいと思つてゐる。

青空文庫情報

底本：「堀辰雄作品集第四卷」筑摩書房

1982（昭和57）年8月30日初版第1刷発行

初出：「作品 第七卷第三号」

1936（昭和11）年3月号

※初出時の表題は「モオリアツク禮讃」です。

入力：tatsuki

校正：染川隆俊

2013年8月8日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

モオリアックのこと

堀辰雄

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>